

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： あなたがたの光を人々のまえに輝かしなさい。 (マタイによる福音書5：16)

保育目標：	0歳児	・周りの様子を感じて、色々なことをしてみる。
	1歳児	・友だちや保育者と楽しんで身体を動かして遊ぶ。
	2歳児	・自然の面白さや季節の変化を感じて楽しむ。簡単な身の回りのことをやってみようとする。
	3歳児	・季節を感じ、身体を動かす心地良さを感じる。リズムや音楽に合わせて動く。
	4歳児	・友だちと一緒にでも一人でも、夢中になって遊びを探索する。
	5歳児	・静と動の両方の時を豊かに心地良く過ごす。絵本や物語をゆっくり楽しむ。

気温の寒暖を繰り返しながら、季節は夏から秋へと移っていきます。秋はたくさんの『○○の秋』がありますね。『食欲の秋』『読書の秋』『スポーツの秋』『芸術の秋』『睡眠の秋』などなど。人の心を動かす不思議な魅力が秋にはあるのでしょうか。皆さんは、今年の秋をどんな『秋』にしますか？

朝、エントランスに立って子どもたちを迎えていると、「おはようございます」という私の呼びかけに子どもたちの色々な挨拶が返ってきます。ニッと笑って階段を駆け上がっていく姿や無言の顔つき、チラッと私に視線を送り通っていく姿、「おはようございます！」と私に声をかけて何だか笑顔になる姿…保護者の方にくっついて顔を隠してしまう可愛らしい姿に出会うと私も自然と笑顔になってしまいます。また、いつもと違う歩き方や表情に出会うと「どうしたのかな!」と心配になり、その後どうしているかしらとそうっと様子を見に行くこともあります。すると子どもたちはどうでしょう！たいいていケロッとして遊び始めているのです(笑) ホットした後、改めて様々な思いを抱えて子どもたちは登園してくるのだなと思います。長い夏と9月の生活を過ぎた頃、子どもたちは良くも悪くも変わり目を迎えます。どちらも大きくなるために必要なのですが、大人はなかなか困った変わり方を受け入れることができません。『今まではスムーズだったのになぜ?』『できていたことができなくなった』など、大人の『どうして?』が先行してしまい子どものことが見えなくなってしまいます。この頃の子どもたちは自分と他者との関係や自分の行為の意味などに気付いて、躊躇することや不安になることがあるのです。でもそこを乗り越えていくことで、子どもたちはまたひと回り大きくなっていきます。今までとは違った手間も暇もかかりますが、この時期は大切です。私たちは一人ひとりの気持ちを受けとめて、その子が自分の気持ちに折り合いをつけて立て直せるように支えることに心を尽くしていきます。

朝、保護者の皆さんはお子さんを園に送り出すためにどれだけ時間をかけて準備されているのでしょうか。限られた時間の中でさぞかし忙しい思いをされているのでは(振り返ると自分もそうでした)と頭が下がります。そして、スムーズに行く時ばかりではありませんから、本当に大変ですね。クラスにお子さんを送られて帰られる時、エントランスに立っている私に「お願いします」と声をかけてくださる姿や会釈をして行かれる姿に感謝の思いを込めて「行ってまいります！」とお返事をさせていただいています。

10月は、子どもたちと散歩や散策に出かけて行き秋の自然を楽しんでいきます。そのために、少しずつ歩く練習をする学年もあるようです。心も身体ものびやかに動き出したくなるこの季節を子どもたちと一緒にたくさん感じて味わって、一人ひとりの育ちにつなげていきたいと思っています。エントランスや園庭のどんぐりやクヌギが色づき、園庭の木々も葉の色を変え始めて子どもたちはワクワクしてきます。いったいどんな出会いがあるのか、今から楽しみです！

今年是一年長組のお泊まり会はいりませんが、『自分たちで生活できた!』という子どもたちの自信や自己肯定感につながる育ちの経験を先生たちは子どもたちと一緒に計画し準備

しています。どのような活動になるのか楽しみにしててください。10月も園の生活が神さまと共にあって、子どもたちの育ちが守られ養われますようにと祈ります。

園長 鈴木 直江